

高い乳質と豊富な搾乳量は乳房炎の正しい予防から!



酪農を取り巻く環境は、長い労働時間、人手不足、飼料や初妊牛・資材価格の高騰等、依然として厳しい。このような状況に対し、納得できる技術や商品を取り入れ、実践している農場について紹介する。

搾乳用タオル「くりんくりんL」の導入

酪農家にとっての主な収入源は毎日の生乳出荷である。良質な生乳を安定的に生産することが経営にとって重要である。そのためには、衛生的で、かつ適切な飼養管理を行うことが大切だ。

酪農経営に影響を及ぼす疾病として、乳房炎はまだまだ主要な原因となっている。平成25年度家畜共済統計表によると、乳用牛等にかかわる病傷病類別事故件数は約140万件であり、なかでも乳房炎に代表される泌乳器病は最も事故件数が多く、約44万件と全体の約31%を占める。乳房炎は、乳量・乳質の低下、治療費の増加、生乳廃棄等の損失につながり、目に見えない潜在性乳房炎による損失も加味すると、乳房炎全体の損害はさらに甚大となる。

当農場では、より衛生的な搾乳作業のため、以前は殺菌消毒剤を使用していた。しかし、安心安全の観点から生乳販連（指定生乳生産者団体）より、塩化ジシルジメチルアンモニウム等を含む殺菌消毒剤の適正な使用の案内があり、使用していた殺菌消毒剤の使用を中止した。その後、乳房炎の発生を気にしながら「お湯」のみで清拭していたが、抗菌作用を持つ「くりんくりんL」の発売をきっかけに平成26年10月から使用を開始した（写真1、2）。

バルク乳の体細胞数は季節的な要因や牛の更新等により影響を受けるが、同製品の使用後に体細胞数は徐々に減少。平成26年と平成25年の11月か

「くりんくりんL」とは

高機能マイクロファイバーにセラミックス複合抗菌材を添加した特殊な生地で、その効果は次のとおりである。①抗菌作用により「くりんくりんL」に付着した菌やウイルスを約1～2時間で除菌・不活化することができる。②マイクロファイバーの極細繊維に加え、生地表面に添加しているセラミックス粒子（アースプラス）

が微細な凹凸を生みだし、清拭使用時に乳頭の古い角質や微細なゴミを絡めとることができる。使用後は通常の洗剤を使用できるので、洗濯も簡単。



サイズは「くりんくりん」（30cm×30cm）、「くりんくりんL」（30cm×50cm）の2種類。
●お問い合わせ先は最寄りのJAグループまで

ら1月の体細胞数の平均を比較すると10万/ml程度低く推移した（図）。平成27年1月の体細胞数の月平均は15万/mlとなり、生乳の取引基準とされる体細胞数30万/ml以下を維持している。
また、敷料には小麦わらをふんだんに使い牛体や乳房をきれいに保つことにより（写真3）、牛が横臥し反芻してリラックスしていること（写真4）も乳質を高める要因となっている。乳質の改善に加え、「乳房炎が少なく作業もスムーズにすすみ、搾乳時間も短くなる」ことを実感している。

図. バルク乳の体細胞数の推移

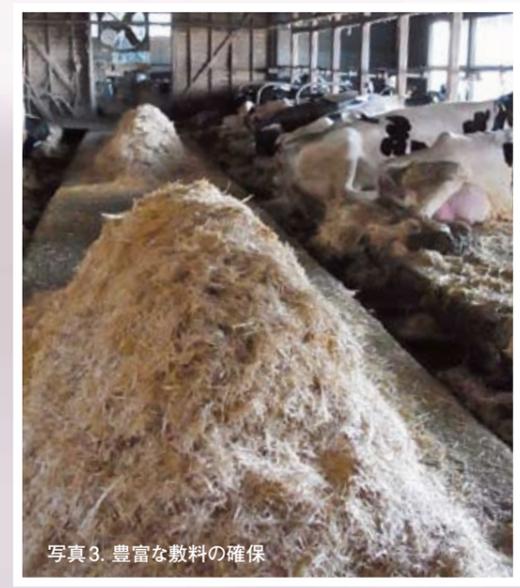
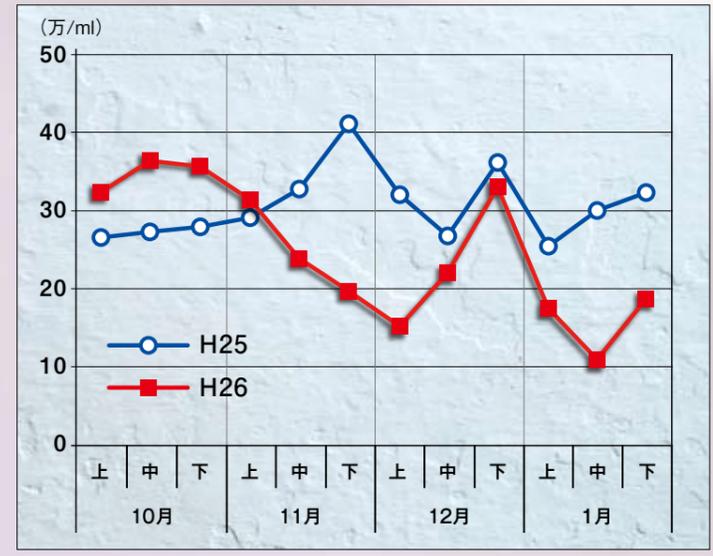


写真3. 豊富な敷料の確保



写真2. くりんくりんLで清拭後のきれいな牛体、乳房



写真1. くりんくりんLで清拭

所在地：関東地方
飼養頭数：経産牛40頭、
和牛繁殖牛18頭
従業員数：2.5名